様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２１年　５月　２４日現在

研究種目：若手研究（B）
研究期間：2007～2008
課題番号：19720143
研究課題名（和文）　日本語と英語の会話コミュニケーションパターンの解明と言語教育への応用
研究課題名（英文）　An Investigation of Communication Patterns in English and Japanese Conversation and its Application to Language Education

研究代表者
土井　香乙里（DOI, Kaori）
早稲田大学・人間科学学術院・講師
研究者番号：60409703

研究成果の概要：

本論では、米国・日本で収集した英語・日本語の会話データをもとに、日英語の会話構造を比較分析し、両言語のコミュニケーションパターンの相違を明らかにした。会話におけるfloor構造に着目することで、会話を進めていくことの意味など日本語と英語での根本的な相違が明らかになった。さらに、日英語の２言語話者の会話をデータとして語用論的・統語的両側面から分析を行い、第二言語習得レベル別の習得過程の一端を明らかにした。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	**1,100,000**	**0**	**1,100,000**
2008 年度	**500,000**	**150,000**	**650,000**
年度			
年度			
年度			
総　計	**1,600,000**	**150,000**	**1,750,000**

研究分野：社会言語学、語用論、会話分析

科研費の分科・細目：3005
キーワード：　会話分析、語用論、コミュニケーション、言語教育

１．研究開始当初の背景

ことばの本質の理解には、言語構造だけではなく、それに影響を与えていると考えられる文化的価値観・物事の捉え方・認知の仕方などを包括的に考える必要がある。

本研究では、英語と日本語の会話構造において見られる相違点を明らかにし、表面上の相違のみならず、表面に現れる構造の背後にある言語による根本的な違いを考える。特に、思考パターンが文化により異なるという人間の認知部分に焦点を当て、日本語・英語のコミュニケーションパターンについて考察する。

２．研究の目的

日本語・英語両言語の会話データを比較分析し、それぞれのコミュニケーションパターンを明らかにする。さらに、日本語・英語の２言語話者の会話を分析し、第２言語習得レベル別に、「母語」と「第２言語」を話す際にどちらのパターンを使用するのかを観察・分析する。特に、習得のどの段階でどのパターンを使用するのかについて着目し、言語習得ということにおいて、人間の認知過程との関連性を明らかにする。

３．研究の方法

米国と日本にて２言語話者（レベル別）の会話データを収集行う。主に、日常的な話題を話者に提示し、「2 人ペア」でその話題について自由に話してもらう。話題については日常よくある話題（休日の過ごし方・旅行について・趣味について等）を扱い、それぞれのペアに日本語と英語両方を話してもらう。収集対象としては、大学生以上の大人を対象とし、英語母語話者・日本語母語話者 20～30 人にお願いした。英語母語話者には（アメリカ人、イギリス人、ニュージーランド人、オーストラリア人、カナダ人）が含まれる。

また、話者は、第２言語の習得レベル別に初級・中級・上級に分類した。習得レベルの分類には、日本語母語話者の場合は、TOEIC などのスコア、英語母語話者については、日本語学習歴、留学歴、日本在住歴等から判断を行った。

会話データの収集には、デジタルビデオカメラを使用し、さらに録画した会話をパソコンに取り込み、動画データを作成した。さらに、録画した会話を文字化して分析データを作成した。

特に、分析において着目した点は、(1)会話構造（floor, interruption 等)、(2) 会話に見られる文法構造（head-final 構造／head-initial 構造、助詞等）である。

これらの項目について、まず、英語と日本語の相違点を示し、それぞれの言語のコミュニケーションパターンを明らかにした。さらに、日本語と英語の習得レベル別に分類した 2 言語話者が、母語と第２言語を話す際のコミュニケーションパターンを分析し、母語・あるいは第２言語どちらのパターンを使用しているのかを分析した。

４．研究成果

本論では、米国・日本で収集した英語・日本語の会話データをもとに、日英語の会話構造を比較分析し、両言語のコミュニケーションパターンの相違を明らかにした。

会話における floor 構造に着目することで日本語と英語の根本的な相違（会話を進めていくことの意味など）が明らかになった。

さらに、これらの分析で明らかになった思考パターンに影響される日英語でのコミュニケーションパターン（語用論的側面からの分析）の相違に関し、日本語と英語の２言語話者が「母語」と非母語である「第２言語」、それぞれを使用する際にどちらのパターンを使用するのかを分析し、さらに会話における文法項目の習得（統語的側面から）の分析も加え、母語話者のパターンとの相違を比較分析した。話者を第２言語習得レベル別に分け、それぞれどのような第２言語の会話スタイルを使用するのかを分析した。つまり、第２言語で話す際に、話者の第１言語のスタイルのまま第２言語で話すのか、あるいは、習得レベルにより、他言語のスタイルも習得されているのかを観察した。分析の結果、言語構造だけでなく、会話スタイルといったコミュニケーションパターンも徐々に習得していくことが明らかになった。

また、本研究では、語用論的な項目のみではなく、会話に現れる文法構造にも着目し、統語的に同様の分析を行った。　特に、head-initial 構造を持つ英語と head-final 構造を持つ日本語とでその部分の習得を分析するために、会話内で動詞の現れる位置、さらに日本語会話において、助詞等に注目した。

この点においても、第２言語習得レベルにより、習得が行われている会話がレベルが上級になるにしたがって見られた。

さらに、第２言語習得における困難度（比較的容易に習得できる項目・難しい項目）を語用論的・統語的項目の両面から明らかにした。

本研究では、２言語話者の第２言語習得といった観点から、日本語と英語の会話コミュニケーションパターンを分析することで、言語の本質（構造や言語使用だけではなく、文化的思考パターンなどを含めた包括的な理解）を明らかにすることができ、さらに明らかになったパターンの相違を言語習得・言語教育分野に新たな可能性を与えられる研究の１つとして有意義であると考えられる。また、異文化理解の上でも役立ちと考えられ、言語教育分野でも意義がある研究であると位置づけられると考えられる。

本論で明らかにした文化的思考パターンの相違、また、２言語話者の習得の一端の解明により、学習者にとっても、第２言語を学習する際に、英語・日本語の文法や構造以外に、そのような点を理解・習得するのが重要であるのかということ分かり、習得が向上すると思われる。

根本の部分での思考パターンの相違等について理解をせずに、自身の母語のパターンや物事の捉え方を前提に（変えずに)、第２

言語を話そうとしたり、身につけようとする傾向にある学習者も多いと思われるため、言語学習に携わっている教育者や学校関係者にとっても、この部分の相違に関して言語学習教材や学習方法に取り入れられるため、本研究は有意義な研究になったと思われる。

特に、第２言語の習得難易度解明から、新たな教育方法を導入することに役立つ可能性がある研究であると思われる。第２言語習得には、文法構造の習得だけではなく、文化による思考パターンや世界観の相違までの理解が必要である。したがって、本研究で明らかにした日本語と英語の構造上の相違のみではなく、認知（ものごとのとらえ殻）・思考パターン（また、それによる会話構造への影響）といった部分の日英語相違の解明により言語習得分野への有効な応用が可能であると考える。

本研究により、このような日英語の思考パターンの相違や、習得過程が分かることで、実際に言語学習や教材制作をする際に、役立てることが可能であり、どの習得段階でどの項目が習得可能であるのかが解明されれば、言語学習のための教材開発にも応用可能であると考えられる。

さらに今後は、本研究で明らかになったことに基づき、言語習得レベルに応じた有効と思われる教材開発に生かしたいと考えている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　5 件）

1. Kaori Doi　“An analysis of second language acquisition of non-native speaker of Japanese.” Proceedings of the BAAL Annual Conference 2008.　（査読なし）（2009）pp.31 – 32
2. Kaori Doi　“An analysis of second language acquisition of non-native speaker of Japanese focusing on grammar in conversational interaction”.　41st BAAL Annual Meeting (British Association for Applied Linguistics) Book of Abstracts　（査読なし）（2008）P. 81
3. Kaori Doi　“Second language acquisition of non-native-speaker of Japanese.” 33 rd Annual Congress of Applied Linguistics Association of Australia (ALAA) Congress 2008 Abstracts　（査読なし）（2008）pp. 67-684.
4. Kaori Doi　“An analysis of the human cognition patterns of English and Japanese bilingual speakers at different levels of acquisition of the non-native language focusing on grammar in conversational interaction.” International Conference on Processing Head-final Structure. Abstracts of Papers and Posters（査読なし）（2007）pp.52-53
5. Kaori Doi　“An analysis of the “floor” structure in English and Japanese conversation from the perspective of the cultural differences in human cognition.” 10th International Pragmatics Conference (IPrA) Abstract（査読なし）（2007）p453

〔学会発表〕（計 5　件）

1. Kaori Doi　“L2 acquisition of non-native speakers of Japanese focusing on syntactic and pragmatic elements.”　11th International Pragmatics Conference (2009.7) (University of Melbourne: Australia)
2. Kaori Doi　“An analysis of second language acquisition of non-native speaker of Japanese focusing on grammar in conversational interaction.”　41 st BAAL Annual Meeting, (2008.9) (Swansea University: UK)

3. Kaori Doi “Second language acquisition of non-native speaker of Japanese. 33 rd Annual Congress of Applied Linguistics Association of Australia.” (ALAA) Congress 2008. (2008. 7)
(University of Sydney: Australia)
4. “An analysis of the “floor” structure in English and Japanese conversation from the perspective of the cultural differences in human cognition.” 10th International Pragmatics Conference (IPrA) (Gotheburg University: Sweden) July. 2007
5. “An analysis of the human cognition patterns of English and Japanese bilingual speakers at different levels of acquisition of the non-native language focusing on grammar in conversational interaction.” International Conference on Processing Head-final Structure. (Rochester Institute of Technology. New York) September 2007

６．研究組織
(1)研究代表者
土井　香乙里（DOI　KAORI）
早稲田大学・人間科学学術院・人間総合研究センター・講師
研究者番号：60409703